



立命館大学

J-PEAKS Digest



立命館大学は文部科学省令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択され、ビジョンとして掲げる「社会共生価値を創出する次世代研究大学」を目指して大学改革を推進しています

創刊号記念

## 巻頭記事

## J-PEAKS事業を通じた次世代研究大学への飛躍

立命館大学 学長 仲谷 善雄

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神のもと、国内最大規模の私立総合大学として、常に革新を追求してまいりました。とりわけ研究分野においては、1995年に大学初の産学連携窓口「リエゾンオフィス」を設置して以来、30年にわたり研究力向上戦略を継続的に推進してきました。これらの取り組みは、教育中心の大学から、研究が教育を牽引し、研究成果と人材輩出によって社会に貢献する「次世代研究大学」への進化を目指す本学の姿勢を示すものです。



このたび、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択されたことは、こうした挑戦をさらに加速させる大きな契機となりました。J-PEAKSは、研究のための資金を提供する研究プロジェクトではなく、大学改革そのものを推進する国家プロジェクトであり、大学全体の研究力強化と運営モデルの構築を目指す事業です。日本の研究力が国際的に低下しているという現状に対し、大学が組織として研究力を高め、若手研究者が活力を持って挑戦できる環境を整えることが、今まさに求められています。

立命館大学では全学的なマネジメント体制のもと、J-PEAKSを通じて「研究力改革」「博士力改革」「社会実装力改革」「財政力改革」の4つの組織改革を掲げ、好循環を生み出す次世代



研究大学への転換を目指しています。その核となるのが「身体圏(しんたいけん)研究」です。現実と仮想が高度に融合する多重環境化社会において、人間の身体・心と環境の相互作用を探究するこの新領域は、スポーツ健康科学を基盤に、学際融合と社会実装を牽引する本大学ならではの挑戦です。また、国内連携機関の強みを結集させるとともに、国際産学ネットワークを拡大することにより研究・教育の高度化と国際化を推進します。



▲立命館先端クロスバースイノベーションcommons(CVIC)/ グラスルーツイノベーションセンター(GIC)外観

この挑戦を支える拠点として、びわこ・くさつキャンパスには「立命館先端クロスバースイノベーションcommons(CVIC/シービック)」と「グラスルーツイノベーションセンター(GIC/ジーアイシー)」が竣工しました。



▲国内最大級のVR空間であるクロスバースアリーナ(イメージ図)

CVICには、国内最大級のVR空間であるクロスバースアリーナやfMRIなどの先端計測機器を設置し、世界のトップ研究者が集い身体圏研究を推進する国際共同研究拠点を目指します。GICでは、スタートアップ創出や地域課題解決を通じて、研究成果の社会実装と価値循環を実現します。これらの施設は、研究・教育・社会共創の新たなランドマークとして、学生・院生・企業・自治体・市民など、様々なステークホルダーが交差する場にしたいと考えています。

J-PEAKSは、立命館が「世界最高水準の研究を展開する次世代研究大学」として日本の研究大学のモデルとなるための挑戦です。教職員、学生・院生、そして初等中等教育を含む学園構成員が、それぞれの立場からこの挑戦に参画し、共に未来を創っていくことこそが、立命館の使命であり、誇りでもあります。

ぜひ、皆さまとともにこの挑戦を共有し、立命館の未来、そして我が国の未来を共に創ってまいりましょう。

## 特別 インタビュー

# 立命館大学 J-PEAKS 採択について

立命館大学 副学長 伊坂 忠夫

## 立命館大学 J-PEAKS 採択について

立命館大学は、文部科学省が公募する令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択されました。

この事業は、大学ファンドによる国際卓越研究大学への支援と並行し、日本全体の研究力向上と研究大学群の形成を目的としています。地域の中核大学や特定分野に強みを持つ大学が、その特色を活かした戦略的経営のもと、他大学との連携、国際的な研究展開、社会実装の推進などを通じて、日本の大学全体の研究力を高めることを目指しています。

立命館大学は、このJ-PEAKSにおいて「身体圏研究」という新たな学際融合の研究領域を創生し、本大学の多様で豊かな「知」の総和を形成することにより、地球規模から地域社会レベルにいたるウェルビーイング諸課題の解決に取り組んでいきます。



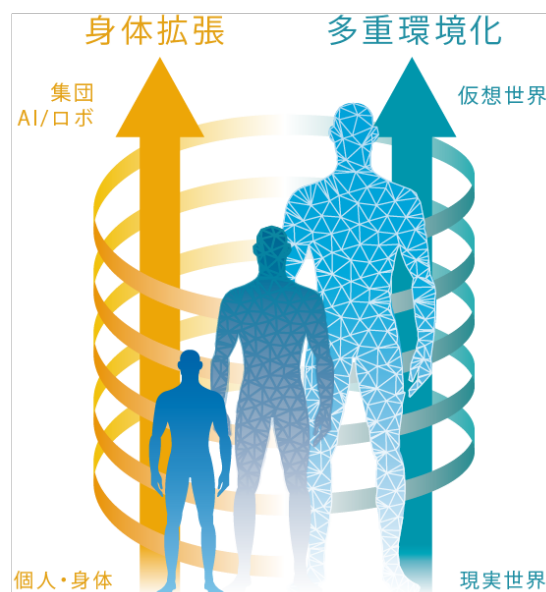
## 身体圏研究とは

人類は、狩猟採集、農耕、産業革命といった歴史の中で、道具を作り出すことで身体機能や環境、すなわち「身体圏」を拡張し、進化・適応を重ねてきました。

現代においては、コンピュータやAIの発展、インターネットの普及により、人類の創造した道具は現実世界を超え、バーチャル空間という新たな次元を生み出しました。これにより、人類の身体圏はかつてない規模で拡張すると予測されます。結果として、リアルとバーチャルが重なり合う「多重環境化社会」の到来が見込まれます。

一方で、「椅子に座り続けることで腰痛を招く」「深夜までパソコンやスマートフォンを使用して睡眠不足になる」など、道具が人間の生活に必ずしも適合していない例も数多くあります。身体圏研究では、このような適応と不適応の両面に着目し、バーチャル空間を含む新しい環境が人間の身体や心理に与える影響を探究します。

研究テーマとしては、まず外部環境としてどのような映像没入空間や多重環境を構築できるか、さらにそれらが身体や心理にどのような影響を及ぼすかを解明します。医学的・工学的な視点に加え、倫理や哲学などの人文科学的アプローチ、法制度・規制や社会受容性といった社会科学的アプローチも取り入れ、学際的に研究を進めます。外部環境と内部環境が相互作用する場面で、人文・社会・自然科学が融合し「人間」を包括的に捉える——それが「身体圏研究」です。



▲身体圏化していく「私」



## 立命館先端クロスバースイノベーションcommons【CVIC】

立命館大学びわこ・くさつキャンパスに、身体圏研究の拠点となる「立命館先端クロスバースイノベーションcommons(CVIC)」が2025年7月に竣工しました。

CVICは、多重環境を創る複数の環境介入設備と、それらの環境が心身に与える影響を測定する先端的な装置を兼ね備える施設として、現在、急ピッチで設備・装置の整備を進めています。

中核となる「クロスバースアリーナ」はテニスコート2面分(約420㎡)の広さを持ち、高さ6.5mの壁面と床に映像を投影することで、没入感の高い仮想空間を再現できます。こうして構築された多重環境の身体への影響を、「fMRI」や「脳波計」などを用いて科学的に検証していきます。

CVICは共同利用可能な施設として産学官の連携を通じて近未来の人間・環境について議論し、研究を発展させる場となることを目指しています。ここで得られる多様なデータをもとに、研究者や市民とともに知を共有し、新しい未来を切り拓いていきます。



▲立命館先端クロスバースイノベーションcommons(CVIC)内施設(イメージ図)

## 最終目標 — ウェルビーイングの実現

身体圏研究の最終的な目標は、ひとりひとりが「やりたいことを実現でき、幸福を感じられる社会＝ウェルビーイングの実現」にあります。

そのために、テクノロジーの活用のあり方、人と人とのつながり、多重環境下での身体のあり方について幅広く議論・研究を進めます。そして、CVICを拠点に皆さんと共に未来を見据え、明るく豊かな社会を築いていきたいと考えています。

## Topics

## 1

## 岡山大学を訪問し、意見交換会を開催しました

2025年2月14日

## ■ 岡山大学(令和5年度J-PEAKS採択校)にて、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に関する取り組みについての意見交換会を実施

本会には、岡山大学的那須保友学長をはじめ、J-PEAKS担当の副理事・副学長・URAの皆様が参加され、立命館大学からは伊坂忠夫副学長を含むJ-PEAKS推進メンバーが出席しました。

両大学のJ-PEAKSにおける取り組みや今後の展望について、活発な意見交換が行われ、岡山大学からは、学内でのJ-PEAKSの周知活動や制度改革への取り組み、さらには研究者が主体的に参画できる組織づくりについて紹介がありました。

一方、本学からは、来年度の事業開始に向けた構想や、Well-being社会の実現を目指した取り組みについて共有し、ヘルスケア分野での連携の可能性についても建設的な議論が交わされました。

今回の意見交換会は、両大学のこれまでの友好的な連携と日頃の情報共有を背景に実現したものであり、J-PEAKS事業を通じた大学間連携の深化に向けた重要な一歩となりました。

今後も本学は、J-PEAKS採択大学との連携を通じて、研究力の強化と社会変革の実現に向けた挑戦を続けてまいります。

## Topics

## 2

BKC開設30周年記念企画  
身体圏研究連続シンポジウム(第4回)を  
開催しました

2025年3月2日

■ キャンパスプラザ京都にて身体圏研究連続シンポジウム(第4回)  
「身体圏研究がつむぐCollaborative Intelligence(協調知)」を開催

2024年度に立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)の開設30周年を記念して全4回の身体圏研究連続シンポジウムを開催しました。第1回目では、「身体圏研究とは?」と題し身体圏研究が目指すウェルビーイングについて定義しました。第2回目では、身体と各種環境(身体内部、社会、現実・バーチャル)との関係が人の心身にどのような影響を与えるのか、ELSIやD&Iの課題も含めた学際共創の視点から探求しました。第3回目では、人間拡張技術による効果・可能性、障老病異の視点、コミュニケーションとウェルビーイングの関係、空間を身にまとう時代の暮らしについてディスカッションを行いました。

最終回となる第4回のシンポジウムでは、BKCに完成した「立命館先端クロスバースイノベーション commons(CVIC)」に導入する施設・設備を紹介し、Collaborative Intelligence(協調知)で成し得る身体圏研究プロジェクトについて議論を展開しました。



## Topics

## 3

## 多重環境体験ワークショップを開催しました

2025年3月26日

### 立命館大学大阪いばらきキャンパスにて、XR技術を研究・開発する企業の協力のもと、「多重環境体験ワークショップ」を開催

本ワークショップでは、参加者が最新のXR(クロスリアリティ)技術を実際に体験し、技術の社会実装に向けた可能性について理解を深める機会となりました。

協力企業として、以下の4社にご参加いただきました：

- ・ ビジュアル・グラフィックス株式会社
- ・ 株式会社クレセント
- ・ キヤノン株式会社
- ・ キヤノンITソリューションズ株式会社

本取り組みは、J-PEAKS事業における「イノベーション・社会実装力の向上」に資するものであり、大学と企業の連携による技術体験を通じて、学生・研究者の実践的な知見の獲得を促進しました。



## Topics

## 4

### 国際連携セミナー「Advancing Dementia Research Through Digital Biomarkers: Opportunities and Challenges」を開催しました

2025年5月28日

### 立命館大学びわこ・くさつキャンパスにてハーバード大学Dodge教授による国際連携セミナーを開催

立命館大学と滋賀医科大学の共催により、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)国際連携セミナーを開催しました。本セミナーでは、ハーバード大学医学部のHiroko H.Dodge教授(専門：神経学、米国老年学会フェロー)をお招きし、ご講演をいただきました。

Dodge教授からは、認知症研究におけるデジタルバイオマーカーの重要性に加え、特に高齢者を対象とした研究においては「個人」の特性を考慮したデータ解析が不可欠であるとの指摘がありました。

また、I-CONNECTプロジェクトにおける研究成果や、今後の応用に向けた展望についても詳しく紹介いただきました。質疑応答では多くの質問が寄せられ、講演後も個別に質問を行う教員や学生の姿が多く見られるなど、参加者の関心の高さがうかがえました。



今後も、滋賀医科大学を含めた連携機関、さらにはハーバード大学やDodge教授との国際的な連携を深めながら、J-PEAKS事業のさらなる推進に努めてまいります。



## Topics

## 5

## 国際連携セミナー「サロン・ド・アプレミディ」を開催しました

2025年6月4日

## 立命館大学びわこ・くさつキャンパスにてノッティンガム大学Atherton教授の国際連携セミナーを開催

ノッティンガム大学の Philip J. Atherton 教授 (専門：運動生理学、立命館大学 RARA フェロー) をお招きし、院生が主体となって企画した国際連携セミナー「サロン・ド・アプレミディ」を開催しました。

本セミナーでは、運動生理学の専門的知見に触れるとともに、国際的な研究交流の可能性について活発な意見交換が行われました。

院生による企画という点でも、主体的な学びと国際連携の実践を体現する貴重な機会となりました。



## Topics

## 6

## 弘前大学を訪問し、岩木健康増進プロジェクトを視察しました

2025年6月5日

## 弘前大学(令和6年度J-PEAKS採択校)を訪問し、同大学が推進する岩木健康増進プロジェクトを視察

岩木健康増進プロジェクトは、地域住民の健康データを活用した先進的な研究・実証の取り組みとして注目されており、今回の視察ではその現場を実際に確認するとともに、弘前大学におけるJ-PEAKS事業の進捗や運営体制についてヒアリングを実施しました。

また、視察後には両大学間で今後の連携の可能性について意見交換を行い、J-PEAKS事業を通じた大学間の共創に向けた対話を深める機会となりました。

立命館大学は今後も、J-PEAKS採択大学との連携を通じて、研究力の強化と社会課題の解決に向けた取り組みを推進してまいります。



## 日本食品化学学会に伊坂副学長が登壇しました

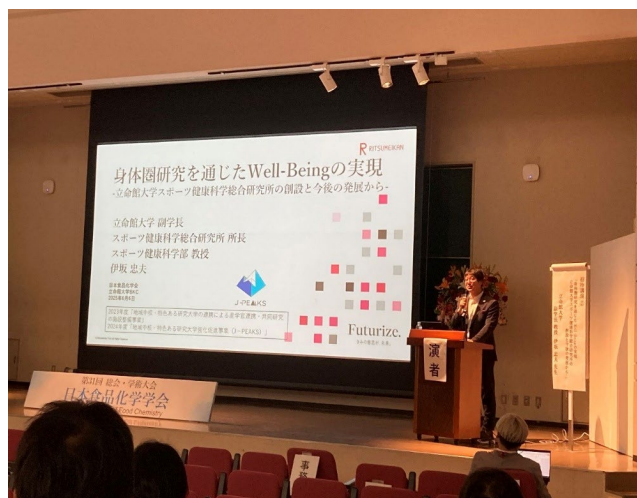
2025年6月6日

立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて行われた第31回日本食品化学学会  
総会・学術大会において伊坂忠夫副学長が招待講演に登壇

本学薬学部教授の井之上浩一教授(スポーツ健康科学総合研究所所員)が大会長を務められた第31回日本食品化学学会 総会・学術大会において、伊坂忠夫副学長が招待講演を行いました。

本講演では、立命館大学が学園ビジョンR2030で掲げる次世代研究大学に向けた取り組みと、スポーツ健康科学分野との関係性について紹介されました。また、スポーツ健康科学総合研究所の研究センターから研究所の創設に至るまでの歩みについても詳しく語られました。

さらに、研究所および所属研究者のこれまでの実績、センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム、現在進行中のスポーツ庁委託事業「先端的スポーツ医科学推進事業」、および「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の取り組みについても紹介され、社会実装に向けた研究の展望が示されました。

国際連携セミナー「スタンフォード大学  
西野教授による睡眠科学についての講演」  
を開催しました

2025年6月24日

立命館大学びわこ・くさつキャンパスにてスタンフォード大学の西野精治教授による  
講演会を開催

学生・院生・研究者など約180名が参加。西野教授による幅広い睡眠研究テーマの紹介に、多くの関心が寄せられました。

睡眠と健康、脳科学、ライフスタイルとの関係など、日常にも深く関わるテーマに触れ、参加者にとって学術的にも実践的にも刺激的な時間となりました。





## BKCにCVIC/GICが竣工 GICのオープニングセレモニーを開催

2025年7月18日

### 立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて

#### 「立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ(CVIC)」および 「グラスルーツイノベーションセンター(GIC)」の竣工式開催

立命館大学は、びわこ・くさつキャンパス(BKC)において、次世代研究大学の実現に向けた新たな研究拠点「立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ(CVIC)」および大学発スタートアップを創出するオープンイノベーション拠点「グラスルーツイノベーションセンター(GIC)」を開設しました。

CVICは、2023年度に文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され建設が実現しました。また2024年度に文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の採択により、現在機器の整備を進めています。CVICではリアルとバーチャルが高度に融合する社会における心身の変化やELSI(倫理的・法的・社会的課題)などに関して学際融合により解明・研究する「身体圏研究」を推進します。



GICは、経済産業省「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」事業に採択され、オープンイノベーションとインキュベーションの両機能を備えた施設として整備されました。1階には、STEAM教育やアントレプレナーシップ教育の展開、試作やアイデアの具現化を支援する「GIC Fab」や、地域・企業との連携を促進するコワーキングスペースを設置。2階には、起業を目指す研究者や学生が利用できる個室(ウェットラボ)や共同利用できる分析機器が設置された共用ラボ、登記可能なラウンジが整備され、多様な人材の交流と価値創出を支援します。



7月18日には竣工式が執り行われ、仲谷総長は「CVICで展開される『身体圏研究』という新たな研究領域への挑戦が、GICとのシナジーを生み出し、次世代研究大学という大きな目標に向けて力強く前進させる原動力になるものと確信しています」と挨拶しました。

## 立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて

### 「グラスルーツイノベーションセンター(GIC)」のオープニングセレモニーを開催

7月28日には、経済産業省、滋賀県、草津市、国立大学法人滋賀医科大学、独立行政法人中小企業基盤整備機構、株式会社村田製作所などから来賓を迎え、GICのオープニングセレモニーを開催しました。式典ではGICへの期待や今後の連携についての挨拶が述べられ、続いて、施設の設立背景や機能が紹介されました。式典後は、今後展開予定のプロジェクトの紹介、施設案内を実施しました。



## Topics

# 10

## 村田製作所と立命館がSTEAM教育の推進に関する協定を締結～日本の理科教育の革新を促す教育モデルの創出と次世代人材育成を目指す

2025年7月28日

## 立命館大学びわこ・くさつキャンパス内にオープンした

### 「グラスルーツイノベーションセンター(GIC)」で本協定に関する記者発表会を開催

株式会社村田製作所(代表取締役社長：中島規巨)と学校法人立命館(総長：仲谷善雄)は、STEAM教育の推進を通じて次世代を担うイノベティブな人材育成と、日本の理科教育革新を促す教育モデルの創出を目的に協定を締結しました。

7月28日には、立命館大学びわこ・くさつキャンパス内に新設された「グラスルーツイノベーションセンター(GIC)」で、本協定に関する記者発表会を開催。仲谷善雄総長は「本協定を通じ、小学校から大学まで一貫した教育の中で、自ら課題を見つけ解決できる人材の育成に、さらに力を入れた」と抱負を述べました。岩坪副社長は「アイデアを実践的な教育の場で迅速に実装できることを期待している。理科教育の革新を促すモデル創出に寄与したい」と述べ、教育プログラムの実現に強い意欲を示しました。

J-PEAKS事業においても、本学がこれまで蓄積してきたアントレプレナーシップ教育を小中高生に提供することを掲げており、未来世代を含めた包括的な人材育成に努めてまいります。

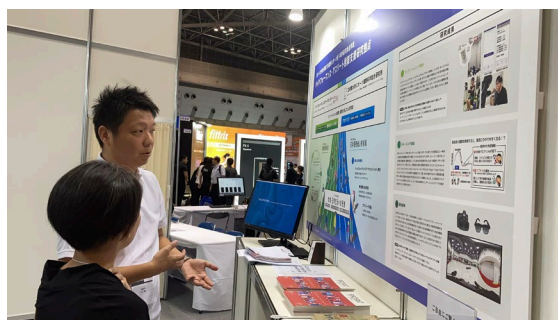


## SPORTEC2025に出展および伊坂副学長による 個別セミナー「身体圏研究とウェルビーイング」 を開催しました

2025年7月30-8月1日

### 東京ビッグサイトにて開催された日本最大級のスポーツ・健康産業総合展示会 「SPORTEC2025」に立命館大学が出展

立命館大学は「身体圏研究」を中心に、立命館大学に竣工された「立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ(CVIC)」の施設や、導入予定の機器を紹介し、ご来場いただいた皆様にJ-PEAKS事業を通じた立命館大学の研究力の向上・社会変革の実現に向けた挑戦について発信する機会となりました。



### 「SPORTEC2025」にて伊坂副学長による個別セミナー 「身体圏研究とウェルビーイング」を開催

8月1日開催されたセミナーでは、立命館大学が採択された文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」において推進する新たな研究領域「身体圏研究」を中心に、テクノロジーと人間の身体・心・社会的つながりの関係性、そしてウェルビーイングの実現に向けた未来像について講演が行われました。

伊坂副学長は、少子高齢化やテクノロジーの進展、自然災害の増加など、現代社会が抱える課題を背景に、人々の心身の健康と社会的つながりを包括的に捉える必要性を強調し、その中で、リアルとバーチャルが融合する新たな環境下における「身体・心・社会環境」の相互作用を明らかにする身体圏研究の重要性を紹介しました。

また、国内最大級のバーチャリアリティ研究施設「XVアリーナ(クロスバースアリーナ)」を含む、立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ(CVIC)についても説明がありました。

さらに、スポーツ庁委託事業「先端的スポーツ医・科学研究推進事業」における「ハイパフォーマンスアスリート極限支援研究拠点」の取り組みも紹介され、多くの来場者に本学の先進的な研究活動を発信する機会となりました。





## 草津市・パナソニック株式会社との 三者協定を締結 ～ウェルビーイングの向上と 地域活性化に向けて～

2025年8月25日

### 立命館大学は草津市およびパナソニック株式会社と

#### 「ウェルビーイングの向上と地域の活性化に関する協定」を締結

本協定は、人口減少社会においても持続可能で活力ある地域社会の実現を目指し、三者がそれぞれの強みと資源を最大限に生かしながらか連携・協力することで、地域課題の解決と新たな価値の創造を図るものです。

草津市では、2025年度よりスタートした第6次草津市総合計画第2期基本計画において、暮らしやすさや幸福感を数値化・可視化する「ウェルビーイング指標」を導入し、住民一人ひとりの豊かな生活の実現を目指しています。パナソニック株式会社は、



1969年より草津市に拠点を構え、冷蔵庫やエアコンなどを通じて豊かな暮らしに貢献してきました。近年では、「一人ひとりが自分らしく、心豊かに生活できる社会の実現」を掲げ、ウェルビーイングなくらしの創造や地域社会との関係を重視した活動を展開しています。



こうした草津市とパナソニックの取り組みに呼応し、立命館大学は地域社会との強い結びつきを持ちながら、教育・研究の高度化と社会連携を推進しています。中期計画「学園ビジョンR2030 チャレンジ・デザイン」に基づき、「新たな価値を創造する次世代研究大学」「イノベーション・創発性人材を生み出す大学」という2つの柱のもと、地域課題の解決に資する多様な連携を進めています。特に、びわこ・くさつキャンパス(BKC)を拠点とした草津市との連携は、学生・教職員が地域に根ざした活動を展開するうえで、大学にとって重要な取り組みの一つとなっています。

J-PEAKS事業においても、地域の産業界や行政、市民を巻き込んだ学際融合・共創研究により、キャンパスや周辺地域を実証フィールドに社会課題の解決に挑む「グラスルーツイノベーションプラットフォームの形成」を掲げており、今回の協定も踏まえて、地域課題解決、豊かなウェルビーイングなくらし・まちづくりに貢献してまいります。

## 第79回日本体力医学会大会に出展および「身体圏シンポジウム」を開催しました

2025年9月17日-9月19日

### 立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて開催された第79回日本体力医学会大会に立命館大学が出展

9月17日-19日、スポーツ健康科学部 特命教授の田畑泉先生が大会長を務められた「第79回日本体力医学会大会」において、立命館大学研究部J-PEAKSチームでブース出展いたしました。

J-PEAKS事業の取り組みとして、身体圏研究についてポスターと動画で紹介いたしました。



### 第79回日本体力医学会大会において、日本体育・スポーツ・健康学会×日本体力医学会ジョイントシンポジウムとして「多重環境社会におけるWell-being実現に向けた身体圏研究」に関するシンポジウムを開催

9月18日に開催されたシンポジウムでは、立命館大学スポーツ健康科学部伊坂忠夫教授を座長とし、立命館大学総合科学技術研究機構定藤規弘教授、国立長寿医療研究センター島田裕之センター長、筑波大学体育系及び健幸ライフスタイル開発研究センター土橋祥平特任助教の3名が登壇されました。

3名の登壇者がそれぞれの研究を紹介しつつ、すでに訪れつつあるサイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)が高度に融合した社会において、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな未来について議論しました。

「身体圏」「多重環境社会」という新たに定義された言葉の概念の説明、高齢者におけるデジタルデバイス利用の難しさの一方、デジタルツールやAIは心身機能の低下の支援に有効であることや、eスポーツを用いた神経生理学的メカニズムの研究など、この先に訪れるSociety 5.0時代のウェルビーイングに関する研究や課題解決に向けた研究発表と、活発な議論が行われました。



本シンポジウムは、身体圏がどのようなものであるかの理解を深めるとともに、身体圏研究の普及に向けた貴重な機会となりました。



## 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)による立命館大学サイトビジットを開催しました

2025年9月29日

### 立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて日本学術振興会(JSPS)の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」伴走チームによる立命館大学サイトビジットを実施

今回のサイトビジットは、本学執行部との意見交換やJ-PEAKS事業の取り組み拠点の視察を通じ、事業の進捗状況の確認や課題を把握するために開催され、本学の担当サポーターである村上雅人氏(大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 監事)を筆頭に、J-PEAKS伴走チームの次席サポーターである須藤亮氏(公益社団法人日本工学会 会長、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション戦略センター フェロー)、J-PEAKS採択大学のリエゾンの方々、文部科学省、日本学術振興会の関係者28名と、連携大学・参画機関の関係者9名が来学しました。

サイトビジットでは、まず本学におけるJ-PEAKS事業取り組みの進捗について、仲谷学長、伊坂副学長(BKC産学連携担当)、定藤教授、三宅副学長(産学連携担当)、中本副学長(教学担当)から説明を行い、その後連携大学(生理学研究所・滋賀医科大学・順天堂大学・大阪体育大学)から各機関の取り組み状況について説明が行われました。説明の後、サポーター・リエゾンの方々を中心に活発な意見交換が行われました。

村上サポーターからは「J-PEAKSに採択された全国25大学のうち私立大学はわずか4校である。立命館大学は大学全体での研究力強化に取り組んでおり、若手育成・研究支援などの体制は国立大学に対しても参考事例となる。身体圏研究を中心としつつ、連携大学・参画機関を含めた日本の大学の研究力強化の模範となることへ期待する」とのコメントを頂戴しました。

意見交換の後、本学のJ-PEAKS事業の拠点として、びわこ・くさつキャンパスに新たに建設した「立命館先端クロスバースイノベーションcommons (CVIC)」に移動し、施設の視察を行いました。



立命館大学は、今回のサイトビジットでいただいた様々なご意見を今後のJ-PEAKS事業の取り組みに活かしてまいります。

### 立命館×J-PEAKS【身体圏研究】についてはこちら



立命館大学  
J-PEAKS  
紹介動画(2分)



立命館大学  
J-PEAKS  
HP



身体圏研究  
シンポジウム  
(第1回)



身体圏研究  
シンポジウム  
(第2回)



身体圏研究  
論文  
(日本語)